

14. 大量に副葬された鉄製品

古墳時代中期、すなわち5世紀前後の古墳からは、大量の鉄製品が出土します。その種類も豊富で、鉄製のヨロイ・カブト、刀・剣・ヤリなどの武器、鍬・鋤・鎌などの農具、斧・ノミ・ヤリガンナなどの工具があります。

これらは、朝鮮半島からもたらされた鉄錠（てってい）と呼ばれる鉄素材から作られました。鉄錠は、両端がわずかに広くなった長方形の鉄板です。当時の日本では、鉄生産がほとんど行われていなかったため、素材を朝鮮半島から入手する必要があったのです。

展示している藤井寺市野中古墳・アリ山古墳・西墓山（にしはかやま）古墳、奈良市大和（やまと）6号墳からは特に大量の鉄器が出土しました。その数は、野中古墳からヨロイ・カブト11セット、アリ山古墳から鍬（やじり）約1500点、鎌約200点、西墓山古墳から鋤294点以上、斧139点以上に及び、さらに大和6号墳からは872枚もの鉄錠が出土しています。

古墳時代には鉄器が普及しましたが、まだ貴重でした。鉄器を大量に埋納することで大王や豪族の偉大さを示したのでしょう。また、大王を中心とするヤマト王権が、鉄素材の確保と製品の生産・流通を握っていたことも推測できます。